

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ・学習規律の確立と、基礎基本の定着
- ・ICTを効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業の実践

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 吉田 里織
- 委員  
 教頭: 濱本薫  
 生徒指導主任: 横田裕江  
 人権教育主事: 吉田里織  
 特別支援教育コーディネーター: 坂口順子
- 教務主任: 角美子  
 研修主任: 福田淳子

校長

曾我部 裕司

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算などには意欲的に取り組む児童が多い。 ●学習規律の定着が不十分であったり、話を最後まで聞いたりすることに課題があり、基礎的・基本的な知識・技能の習得が十分でない児童がいる。 ●文章を読み取ることに課題がある。	・学習規律を守り、基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。 ・読書を通して、語彙を増やしたり言語活動の基礎となる文章表現を学んだりし、日常生活の中で活用できる。	・学習規律について、全校で共通理解を図り、児童に具体的に示す。 ・朝の活動や家庭学習を利用して漢字や計算の反復練習ができるようにする。 ・読書の楽しさが味わえるよう工夫する。(読み聞かせ、並行読書、市立図書館の積極的な活用等) ・ICT等を利用し、視覚的に分かりやすい授業の工夫をする。	・漢字や計算練習などのミニプリントを常備しておき、児童の実態に合わせてスモールステップで復習ができるようにする。 ・児童が読書をしたくなる環境づくりを行う。(市立図書館との連携や学校図書館の充実等) ・AIドリル等の有効な活用方法についての研修を重ねる。	・学習規律は、根気強く取り組んだことにより、身に付き始めている。 ・児童の実態に応じたミニテストやプリントを用いて反復練習をしたことで、基礎的な力が向上した児童が増えた。 ・図書委員会を中心に読書の幅が広がる工夫をしたり、市立図書館の本を借りて並行読書ができるようにしたりしたことで、本に親しむ児童が増えつつある。	・ノートやプリントに書く字の指導を粘り強く行い、問題に丁寧にじっくり向き合えるように工夫する。 ・読書を通して、語彙を増やしたり表現の方法を学んだりしたことが、生活の中で活用できるように充実した学びの場を設ける工夫が必要である。 ・個人差に対応できるよう、指導方法を考える。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分が体験したことについては、進んで書いたり話したりすることができる児童が増えてきつつある。 ●問題文を正確に読み取ったり、理由や根拠を整理しながら分かりやすく伝えたりする論理的思考が十分育っていない。	・理由を明らかにしながら、一人一人が自分の考えをもち、表現することができる。 ・自分の考えと相手の考えを比較・検討することで、よりよい考えを見つけ出すことができる。	・教科を問わず、自分の思いや考えをもったりまとめたりするために、「書く」活動を多く取り入れる。 ・児童が自分の思いや考えを説明できるように話型を掲示する等、「話す」活動の充実を図る。 ・タブレットの有効的な活用法を教員間で共有する。	・テーマや字数を決めて書く活動を増やし、児童同士の相互評価の場も設ける。 ・聞き方の掲示をし、「話す」こととともに、「聞く」ことを大切に、話合いの充実を図る。 ・表現することの楽しさやよさが感じられる場の設定を考える。	・話型の例を提示したことで、自分の考えを言語化できる児童が増えた。 ・書いたり話したりする活動の場を充実させることで、相手の意見にもしっかり耳を傾けて自分の意見をまとめる習慣が身に付きつつある。	・人の話を聞く力が十分育っていない児童もいるため、日頃の指導の工夫が必要である。 ・考えを整理してから話したり書いたりする習慣を身に付けさせるための指導の手立てを考える。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○好奇心旺盛で、体験活動を伴う学習に意欲的に取り組むことができる。 ●自分から課題を見つけたり、粘り強く取り組んだりする力に課題がある。	・読書や家庭学習を通して、自ら学ぶことの楽しさに気づくことができる。 ・課題に対して、自分の考えた方法で、粘り強く探求することができる。	・参考になる自主学習ノートを紹介したり、週末に本の貸し出しを行ったりし、児童の家庭学習への意欲を高める。 ・自分のめあてをもたせ、ふり返りを行うことで、児童ができたという実感を味わい学習活動の意欲を持続できるようにする。	・自分が考えたことだけでなく友達への考えも書き込み、学びの跡が残っているノートを紹介する。 ・児童が粘り強く学びたくなるような教室環境を整える。(掲示物や教師の表情・声かけなど)	・相手の考えに興味をもつことができるようになってきた。 ・継続してきた学びの跡が目に見えるようにしたことで、粘り強く学ぼうとする児童が増えてきた。	・児童に思いや願いをもたせたり、自分で課題を見つけさせたりし、「やらされている」のではなく主体的に学ぶための指導のあり方の検討をする。 ・できたという実感がもてるような指導のあり方を工夫する。

令和5年度 学力向上ロードマップ



